令和８年８月 28 日

朝来市長　藤　岡　　勇　様

第８期朝来市行財政改革推進委員会
会長　倉田良樹

朝来市行財政改革推進の在り方について（中間答申）

第８期朝来市行財政改革推進委員会は、令和７年８月 25 日付諮問第６号により諮問を受け、朝来市行財政改革推進の在り方について、市民視点及び専門的見地から慎重に審議を重ねました。

つきましては、第４次朝来市行財政改革大綱（計画期間：令和４年度～令和８年度）に基づく取組並びに第５次朝来市行財政改革大綱の策定について、下記のとおり中間答申します。

第３次朝来市総合計画改訂版の将来像の実現に向けて、本答申を十分に尊重するとともに、今後も健全な行財政運営を推進されるよう期待します。

記

○第４次朝来市行財政改革大綱に基づく取組（事務事業の外部評価）

１　概要

外部評価は、行政外部から迎える評価者（外部評価委員）によって、自治体の施策・事業に関する必要性や有効性、効率性・実施主体の妥当性などを議論・検討し、施策・事務事業の見直し・改善に導くために行うものである。

【外部評価対象事業】

令和８年度事務事業評価（令和７年決算）のうち、特に外部評価が必要と判断された４事務事業

２　審議結果

（１）総括

事務事業評価は、市の行政マネジメントシステムの中において、当該年度決算に基づき実施される重要な取組であるため、当委員会による外部評価実施の有無に関わらず、今後も引き続き適正な評価を実施されたい。

（２）主な意見

・財政収支見通しを示す際、グラフなどの視覚的なデータを用いられたい。
・これまで減らす方向だった職員数の目標について、人材確保、組織力強化の必要性を盛り込んだ、第４次定員適正化計画策定の背景を記載されたい。
・歳入確保や財政規律に重きを置くスタンスとされたい。
・デジタル推進については、高齢者からはサービスが低下したと感じ取られやすい取組である。サービス向上が実感できる具体的な取り組みを推進されたい。
・デジタル技術の活用は、市民生活においてもなくてはならない重要なものである。発展させることができるものについては発展させるという、ポジティブな表現を取り入れられたい。
・人事評価制度の運用について、ただ継続するだけでなく、改善に向けた方向性や方法が伝わるような表現とされたい。
・専門用語については、なるべく市民に分かりやすい表現とされたい。

（３）第５次朝来市行財政改革大綱の推進について

・大綱に掲げた取組を形骸化させないよう、各課横断的な推進体制を構築するとともに、全職員が改革の当事者意識を持つための庁内研修等の充実を図られたい。
・具体的な数値目標（ＫＰＩ）やロードマップを早急に策定し、着実に行財政改革を推進するとともに、毎年、実施状況を検証し、その結果を市民及び当委員会へ定期的に報告をされたい。